

国立国語研究所 宇佐美まゆみ先生講演会
自然会話分析とディスコース・ポライトネス理論の展開の可能性

講演概要

本講演では、人間の相互作用を語用論的観点から分析するのに適した国語研の『BTSJ 日本語自然会話コーパス』を用いた分析の可能性を紹介した上で、ポライトネスを人間の相互作用という観点から相対的に捉え直し、また、新しく「時間経過とポライトネス」という観点を含めた『ディスコース・ポライトネス理論』の骨子を紹介する。これらを通して、自然会話を分析する意義、それが言語研究の中で、どのように位置づけられるのか、また、データに基づく実証的研究の中における「理論」というものの重要性とその生かし方について論じる。その上で、現在の世界のポライトネス研究の状況を批判的に検討しながら、今後の自然会話分析とディスコース・ポライトネス理論の展開の可能性について展望する。

講師紹介

東京外国語大学教授を経て、2016年度より、国立国語研究所 日本語教育研究領域 教授。教育学博士 (Ed. D)。専門は、言語社会心理学。日本語教育学。慶応義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻、ハーバード大学教育学部大学院言語・文化修得専攻 博士課程修了。ポライトネス理論研究の他、女性、高齢者など社会的マイノリティの視点に立ち、「言葉」がいかに関現認識を形成し、再生産しているかという観点から、執筆活動を行っている。語用論、言語教育に関連する主な著書・論文に、『言葉は社会を変えられる』（編著）、明石書店（1997）、『ポライトネス理論の展開（1～5、7～13）』『月刊言語』（1月号～12月号）、大修館書店（2002）、“Discourse Politeness in Japanese Conversation: Some Implications for a Universal Theory of Politeness,” Hituzi Syobo（2002）、「ポライトネス理論研究のフロンティアーポライトネス理論研究の課題とディスコース・ポライトネス理論」（2008a）『社会言語科学』11(1)、社会言語科学会：4-22、「相互作用と学習ーディスコース・ポライトネス理論の観点から」（2008b）、西原鈴子・西郡仁朗編『講座社会言語科学 第4巻 教育・学習』、ひつじ書房などがある。



2019年2月16日（土）15：40～17：10
関西学院大学 G号館 326室
入場無料 事前予約不要
どなたでもお気軽にご参加ください
当日はG号館の北東側出入口をご利用ください
主催：言語コミュニケーション文化研究科院生会